町田市の色彩景観の現状と課題

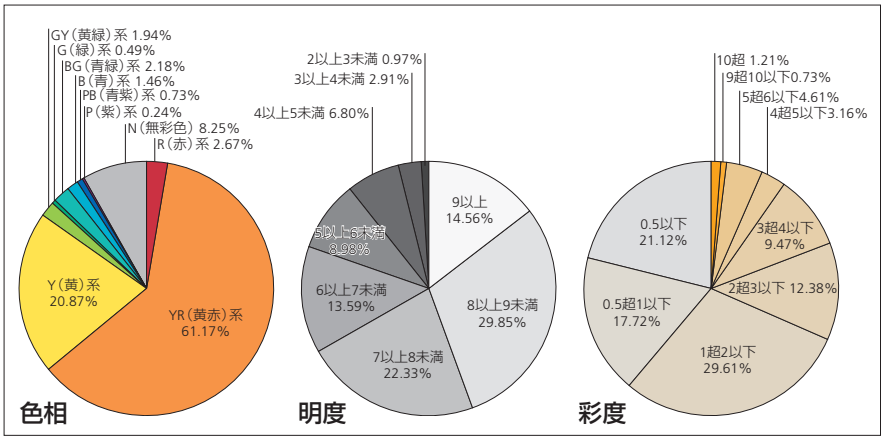
04

Color Scape Guidelines for Machida City

暖かく落ち着いたまち並みの色彩がつくる品格のある景観

市内建築物等の現況調査の結果、約82％の建築物が外壁基本色に暖かみを感じさせるYR（黄赤）系やY（黄）系などの暖色系色相を用いていることがわかりました。

また、派手さを抑え落ち着いた色彩が大多数を占めており、約90％の建築物が彩度4以下の色彩を基調とし、植物の緑の葉よりも鮮やかで目立つ彩度6を超える色彩を基調としているものは約2％に過ぎないことも把握できました。



色彩調査の結果（抜粋：建築物の外壁基本色の色相、明度、彩度）円グラフ

町田市の色彩景観は、暖かく落ち着いた雰囲気の色彩が基調となっており、こうした色彩が豊かな自然と調和し、品格のある景観を創り出しています。本ガイドラインによる色彩基準は、このような各地区の色彩調査結果をふまえて策定しています。

まちをとりまく豊かな緑がつくるやすらぎのある景観

町田市では市街地をとりまくように豊かな自然が残されています。里山や農地、社寺林、庭木など、多くの人の手で維持保存されてきた自然は、落ち着いた色彩の建築物等と相まって、ふるさととしてのやすらぎや誇りを育む要素となっています。

町田市の景観形成基準ではこうした点に着目し、すべての地域で建築物等の基本色が植物のみどり以上に目立つことがないように調整を図り、自然と人工物が調和した景観が育まれるよう考慮しています。

自然の色彩は四季折々に変化しますが、建築物等の色彩は永い時間変化することがありません。建築物等の色彩をより落ち着いた色調でまとめることにより、生きた自然の存在感や四季の豊かさが一層鮮やかに感じられるようになります。

市内随所に見られる様々なスケールのみどり（上：尾根緑道、下：相原）

住まい手の思いが感じられる風格のある住宅地景観

近郊の住宅都市として成長してきた町田市には、多様な住宅地の景観が見られます。

住まい手の思いや周辺との協調が感じられる美しい住宅地も多く、これら身近なまち並みの保全にあたっては、住民自らが率先して取り組むことも大切です。

市では、景観づくり市民活動の支援や市民提案による景観形成誘導地区の指定制度などを設けており、まちの色彩景観をより洗練されたものとし、住まい手の愛着を育んでいくためにこうした制度を積極的に活用していくことも考えられます。

落ち着いた色彩で構成されている風格のある住宅地（三輪緑山）

品格ややすらぎを阻害する色彩の適切な誘導

JR横浜線や小田急線の各駅周辺、町田街道などの幹線道路沿道などを中心に、少数ですが周囲から突出するような派手な色彩を用いた建築物が立地しています。

これらの中には、企業のイメージカラーをそのまま外壁や屋根などの色に用い、派手な広告物と相まって、落ち着きのない景観を創り出しているものも見られます。

町田市の景観形成にあたっては、こうした色彩を適切に誘導し、市の景観に底流する品格ややすらぎが実感できるよう調整を図ることが大切です。

派手な印象の建築物等（他市事例）

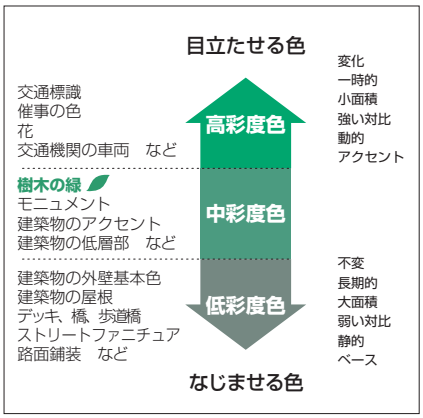
05 色彩景観の基礎知識と配慮事項

個々の建築物等の色彩を考える前に周囲のまち並みを確かめる

景観の中で目立たせるもの・周囲のまち並みになじませるもの

景観は多様な要素によって構成されています。建築物等のデザインを進めていくと、どうしても目立たせたいという思いが生まれてきますが、景観の中には、美しく際だたせるべき要素と、周辺に融和させるべき要素があるものです。

信号や標識は目立たないと社会生活に支障をきたします。また、花や緑は小さくとも暮らしにうるおいを与えてくれる大切な要素で、まちの景観を美しく整えるためには是非とも目立たせたい色彩といえます。一方、建築物等の色彩は、規模が大きく同じ場所にあり続けるもので、大地のように周囲に馴染み景観のベースとなる落ち着いた色彩を基本とすることが大切です。

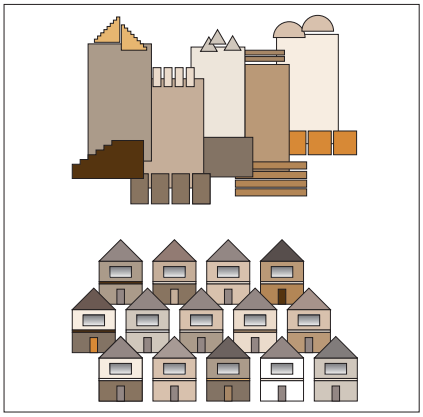


景観の中で目立たせる色と周囲になじませる色の例

周囲のまち並みや地域が継承してきた風景との色彩調和を考えて

建築物等の屋根や外壁の色彩は、他人の意図で選ばれた色彩との相互調整が必要となります。個々の主張をぶつけ合うのではなく、相互の意図を確認・調整する場と機会を設け、関係者が協力して美しいまち並みを育んでいくことが大切です。

色彩の相互調整を行う際に重要なのが色彩調和の考え方です。まち並みの色彩に連続性や共通性をもたせるためには、色彩の三属性である色相や明度、彩度のいずれかをそろえる方法などが考えられます。現況調査の結果を踏まえると、色相はYRやYなどの暖色系、彩度は0～4程度までの落ち着いた色調でそろえることが基本といえ、そうした中から地域と調和する色彩を選定していくことが大切です。



建築物の色彩を暖色系色相でそろえた例

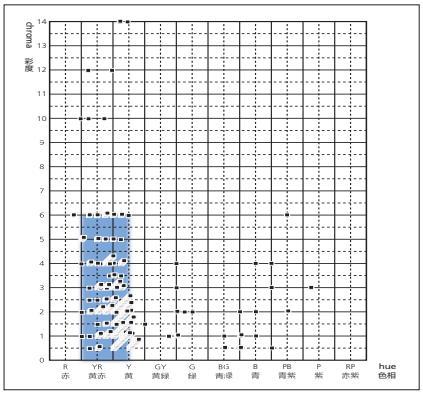
個々の建築物等の規模や形態を踏まえ美しい色彩・配色を考える

建築物等に良く用いられる色彩を基本に

現況調査からも明らかなように、市内の建築物等の色彩は暖色系色相の低彩度色が基本になっています。

色彩に対する期待が過剰になると、普通とは違う目新しく奇抜な外観をつくろうという発想が生まれがちですが、多くの建築物等に用いられるごく普通の色彩は美しさや機能性、経済性などの観点から、永い時間をかけて洗練されてきた色彩であり、合理的な色彩計画の基本色といえます。

建築物等の色彩計画は、暖色系の中・低彩度色を中心に考え、配色を発展させていくことが基本といえます。



建築物の外壁基本色の色彩調査から

建築物等の規模や形態、材料などを考えて

同じ配色でも建築物等の規模や使用部位によってその印象は大きく異なります。

色彩には面積効果があり、色面が大きくなると派手な色や暗い色はその特徴がより顕著に表れます。このため、大規模建築物においては、景観シミュレーションを実施したり大型の色見本を用意するなど、より慎重な色彩選定が求められます。

また、全体を単色で仕上げるのではなく、建築物等の形態・部位に応じて色彩を使い分けるなど、きめの細かい配色計画を行うと、威圧感を軽減し変化のある外観をつくり出すことができます。色彩は表面のお化粧ではなく、建物の機能を的確に表したり、建物の印象をより美しく整える役割を担っています。

規模や形態をふまえて色分けをした業務ビルの例